

## 研究成果及び活動一覧（2022. 1. 1～12. 31）〔五十音順〕

- A：著書、論文、書評など  
 B：学会での口頭発表その他の活動  
 C：講演、論説など  
 D：学術的調査

## 青山英正

- A：1 （論文）「狂歌師長谷川数照について——飛脚業と文事と——」、『明星大学研究紀要 人文学部日本文化学科』第30号、pp 29-37、3. 10.  
 2 （その他）「これまでとこれからと」、『明星大学研究紀要 人文学部日本文化学科』第30号、pp 17-19、3. 10.  
 3 （その他）「雅俗論のゆくえ——新しいパラダイムの創成をめざして——」後日コメント、『雅俗』第21号、pp 65-66、7. 15.  
 4 （その他）「【対談】日本伝統の和歌の魅力」、『吟剣詩舞』第52巻第12号通巻555号、pp 3-7、12. 1.
- B：1 （学会活動）鈴屋学会常任委員。  
 2 （学会活動）鈴屋学会機関誌『鈴屋学会報』編集委員長（3月まで）。  
 3 （学会活動）日本近世文学会常任委員。  
 4 （学会活動）日本文学協会委員。  
 5 人間文化研究機構国文学研究資料館地域資料専門部会委員。  
 6 総合研究大学院大学博士論文審査委員、中川豊氏『近世中後期における〈知〉の伝播に関する研究——歌壇・文事・蔵書——』。  
 7 （学会活動）第143回日本近世文学会、研究発表司会、梅田径氏「小山田与清の蔵書形成——集書と考証と索引の関係——」、於同志社大学、11. 6.
- C：1 （講演）「賀茂真淵の万葉集注釈——近世におけるその位置づけ——」、第2回賀茂真淵セミナー、於アクティビティ浜松、9. 25.
- D：1 （学術調査）京都府立京都学・歴史館山本読書室旧蔵資料調査、11. 5.

### 内海敦子

- A : 1 論文 単著、内海敦子、「タラウドの民話—猿とサギの物語：タラウド語テキストと日本語訳」明星大学研究紀要——人文学部——日本文化学科、第30号、pp 102-88.
- B : 1 研究会発表、単独発表：Atsuko Utsumi 'Crop terms in Austronesian'、2021年度第2回（通算4回）、「アジア・アフリカ地理言語研究」研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。03.20.
- 2 学会発表：単独発表、Atsuko Utsumi 'System of 'Sibling' terms in Austronesian'、2022年度第1回（通算5回）、「アジア・アフリカ地理言語研究」研究会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。07.23.

### 勝又 基

- B : 1 （口頭発表）「皆川良礎とは何者か」、ワークショップ「写本の山は招くよ」、オンライン開催、1.10.
- 2 （口頭発表）「落語「大丸屋騒動」の成立」、第41回九州近世文学研究会、JR博多駅シティ会議室、5.21.
- 3 （英語ディスカッサント）Engaging Critically, Digital Humanities Resources for Early-modern Japanese Literature, Cambridge University（オンライン開催）、12.3.
- C : 1 （ワークショップ主催）「公開ワークショップ：写本の山は招くよ」、科学研究費（基盤B 海外学術）「写本文化としての日本近世——国際貢献できるUCパークレー校蔵写本目録作成を通じて」、オンライン開催、1.10.
- 2 （英語招待講演）「The Love and Hate Relationship with Filial Piety: Japan from the 8th Century to the Present」、Stanford University（オンライン）、4.29.
- 3 （エッセイ）「なぜ日本は孝行者表彰をしなくなったのか」、「学会会報」956、pp.33-36、学会、9.1.
- 4 （教育活動）ブランダイス大学日本語クラスとの合同研究会、オンライン開催、11.26.
- 5 （エッセイ）「最後の中野先生蔵書」、『雅俗悼辞』、中野三敏先生を偲ぶ会、pp.31-39、11.27.
- 6 （招待講演）「登山から航海へ——なぜくずし字を学ぶのか」、立命館大学「くずし字解読力錬成講座」キックオフミーティング、オンライン、11.30.
- 7 （インタビュー）「古文・漢文不要論争」が毎年こうも白熱する背景——「入試に役立つ」と答える国語教員の無防備さ」、東洋経済オンライン、12.27.

## 向後恵里子

- A : 1 「日清戦争錦絵にみる身体を表象——兵士の血と裸身をめぐって」『人文自然科学論集』no.150, (東京経済大学), 2022年2月, pp.89-114.
- 2 「絵葉書の戦争、掌上の帝国——恤兵・蒐集・記念」『もやもや日本近代美術 境界をゆるがす視覚イメージ』勉誠出版, 2022年12月, pp.241-276.
- B : 1 早稲田 表象・メディア論学会 会計監査担当.
- C : 1 エッセイ:「ひらいてゆくことについて——《ラ・ジャポネーズ》の議論をめぐる文化の複数性の可能性」(日本文化の過去・現在・未来), 『明星大学研究紀要 人文学部 日本文化学科』30, 明星大学, pp.120-124.
- D : 1 科研費:基盤研究(C)「明治後期における戦争画の移入と展開:トモエ会の活動を中心に」(課題番号19K00181)2019-23年度.
- 2 自主研究会:美術・視覚文化研究会展覧会見学「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」(東京都美術館)2022.6.12.
- 3 自主研究会:美術・視覚文化研究会展覧会見学「静嘉堂創設130周年・新美術館開館記念展 I 響きあう名宝——曜変・琳派のかがやき——」(静嘉堂文庫美術館)2022.12.18.

## 古田島洋介

- A : 1 〔論文〕「漢文訓読の《三重訳》——標準模型構築の試み」、東大比較文学会《比較文学研究》第107号、pp.52-68、1.20.
- 2 〔論文〕「〈返り点=ベクトル理論〉の試み——返り点は合理的に説明できるのか?」、《明星大学紀要・人文学部日本文化学科》第30号、pp.39-52、3.10.
- 3 〔論文〕「漢文教育の凋落——漢文の立場から見た戦後の国語改革」、明星大学戦後教育史研究センター《戦後教育史研究》第35号(終刊号)、pp.49-64、3.11.
- 4 〔論文〕「おまじないの領分——私が体験した中国社会の“怪しげな力”」、東アジア比較文化国際会議日本支部《東アジア比較文化研究》第21号、pp.66-79、7.10.
- B : 1 〔研究発表司会〕2022年度東アジア比較文化国際会議日本支部大会、《ZOOM》ONLINE開催、〔基点〕大東文化大学文学部日本文学科:講演(16:15-17:00)山田直巳(成城大学名誉教授)「闘牛の来た道——始発クイェン(貴陽)闘牛を問う」の司会を務める。6.25.
- 2 〔研究会参加〕高島航『スポーツからみる東アジア史——分断と連帯の二〇世紀』(岩波新書、2021)輪読会;国際日本文化研究センター共同研究会:牛村圭教授[主宰]「文明としてのスポーツ/文化としてのスポーツ」第三年次第一回研究会、《ZOOM》ONLINE開催(13:30-17:30)、〔基点〕国際日本文化研究センター、7.23.

- 3 〔Round Table：司会＋講師〕2022年度日本比較文学会・第60回東京支部大会、Round Table〈没後100年の鷗外像〉司会＋研究発表（16：40-17：00）「森鷗外と記憶術——ドイツで発動した好奇心」、《ZOOM》ONLINE開催（15：50-17：20）、〔基点〕早稲田大学文学学術院、10.15.
  - 4 〔映画製作協力〕2022年10月21日〈東宝〉系劇場公開《線は、僕を描く》（〔監督・脚本〕小泉徳宏、〔主演〕横浜流星・清原果耶）のPamphlet & Credits中に「漢詩協力／明星大学 日本文化学科 古田島洋介」と掲載された。作中の漢詩の一句「其馨若蘭」が〔唐〕李善〔注〕《文選》v.24所載〔三国・魏〕嵇康「贈秀才入軍」五首ノ五の第十句であることを特定し、その適切な訓読を教示、劇中で清原果耶が扮する女流水墨画師千瑛の科白「其の馨しきこと蘭の若し」として実現した。10.21.
  - 5 〔研究会書評者〕井上芳保『鬼滅の社会学』（筑摩選書0234、2022年）読書会、〔主宰〕日本文化学科：内海敦子教授、明星大学28号館308教室、18：10-20：10、12.15.
  - 6 〔合評会／司会＋論評対象論文執筆者〕東大比較文学会《比較文學研究》第107号合評会：論評対象論文＝上記A-1、《ZOOM》ONLINE開催（10：00-12：00）、〔基点〕東京大学（駒場）比較文学比較文化研究室、12.16.
  - 7 〔研究発表司会〕2022年度東アジア比較文化国際会議日本支部例会、《ZOOM》ONLINE開催、〔基点〕大東文化大学文学部日本文学科、研究発表（15：30-16：30）王宝平（二松學舎大学教授）「秋山白巖と上海文化人との交遊」の司会を務める。12.24.
  - 8 東大比較文学会《比較文學研究》編輯委員、2008.10.～
  - 9 「東アジア比較文化国際会議」日本支部長、2012.6.～
  - 10 国際日本文化研究センター共同研究会：牛村圭教授〔主宰〕「文明としてのスポーツ／文化としてのスポーツ」共同研究員、2019.4.～
- C：1 〔論考〕「重訳管見——吾が疑念と体験」、東大比較文学会《比較文學研究》第107号「巻頭言」、pp.1-7、1.20.
- 2 〔論説〕「第30回記念号に寄せて——国語の横書きは国体紊乱なり」、《明星大学紀要・人文学部日本文化学科》第30号「巻頭言」、pp.1-2、3.10.
- 3 〔随筆〕「人生最後の語学——タイ語と歴史的仮名遣い」、《明星大学紀要・人文学部日本文化学科》第30号、pp.25-27、3.10.
- 4 〔論説〕「森鷗外の漢詩をめぐって——日本の言語文化に関する一考察」、大修館書店《国語教室》第118号、pp.18-21、10.15.
- D：1 〔武術指導〕日文研究会《日中武道比較研究会》顧問として、会員学生に各種護身術および空手の基本技（突き・蹴り・受けの基本、複合技移動稽古、五本組み手etc.）を教授、第1回：4.19.、第2回：5.10.、第3回：5.24.、第4回：6.21.、第5回：6.28.、第6回：10.11.、第7回：10.25.、第8回：11.8.、第9回：11.22.、第

10回：11.29、第11回：12.13。(各日とも18：10-19：40)。\*第5回と第10回は、中国嵩山少林寺伝統武術班教員：川口賢老師を講師に招聘した《古伝「少林拳」特別研究会》である。

### 柴田雅生

- A：1 (特集 日本文化の過去・現在・未来) 表記の「ゆれ」を再考する、『明星大学研究紀要 人文学部日本文化学科篇』第30号、pp.11-14、3.10.
- D：1 3年次の日本文化演習において、学生とともに、『祝本狂言集』の各曲の本文解釈と文化的背景との関わりについて研究を行った。
- 2 日文研究会の「日本語研究会」において、国語辞典を基礎データとした外来語の語義と共起する語の関係について研究を行った。

### 田村良平 (筆名：村上湛)

- A：1 評論：「(評・舞台) 国立劇場『南総里見八犬伝』圧倒的な座組、自信と自負を」、『朝日新聞』夕刊(首都圏版)、1.20.
- 2 評論：「(評・舞台) コクーン歌舞伎『天日坊』《読み替え》と見るか、迷走か」、『朝日新聞』夕刊(首都圏版)、2.17.
- 3 評論：「(評・舞台) 国立劇場『近江源氏先陣館』吉右衛門の遺志、継承の秀演」、『朝日新聞』夕刊(首都圏版)、3.17.
- 4 評論：「(評・舞台) 国立劇場『通し狂言 義経千本桜』菊之助3役、純粋な魂の叫び」、『朝日新聞』夕刊(首都圏版)、10.13.
- 5 評論：「(アートレビュー) 野村狂言座『鱸包丁』笑劇を突き抜けた至芸」、『日本経済新聞』夕刊(首都圏版)、12.13.
- 6 随筆：「人間国宝に北陸ゆかりの二人 中村梅玉・大坪喜美雄」、『北國新聞』朝刊、8.4.
- 7 随筆：「金沢おどり・兼六園の四季に遊ぶ」、『北國新聞』朝刊、9.15.
- 8 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その8「一点梅花藁」、『邦友会通信』如月号、石川県音楽文化振興事業団、1.不明日.
- 9 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その9「金春禅竹の劇世界」無事終了」、『邦友会通信』弥生号、石川県音楽文化振興事業団、2.不明日.
- 10 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その10「さくら咲くころ」、『邦友会通信』卯月号、石川県音楽文化振興事業団、3.不明日.
- 11 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その11「第19回〈金沢おどり〉に向けて」、『邦友会通信』水無月号、石川県音楽文化振興事業団、5.不明日.
- 12 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その12「金沢城と能舞台」、『邦友会通信』文月号、石川県音楽文化振興事業団、6.不明日.
- 13 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その13「数寄ごころの大切さ」、『邦友会通信』葉月号、石川県音楽文化振興事業団、7.不明日.

- 14 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その14「菊月の情趣」、『邦友会通信』長月号、石川県音楽文化振興事業団、8. 不明日.
- 15 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その15「2022年〈金沢おどり〉を終えて」、『邦友会通信』神無月号、石川県音楽文化振興事業団、9. 不明日.
- 16 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その16「落語を聴く楽しみ」、『邦友会通信』霜月号、石川県音楽文化振興事業団、10. 不明日.
- 17 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その17「役者と役柄」、『邦友会通信』師走号、石川県音楽文化振興事業団、11. 不明日.
- 18 随筆：コラム「伝統芸能の窓」その18「三番叟のはなし」、『邦友会通信』睦月号、石川県音楽文化振興事業団、12. 不明日.
- 19 随筆：「茶の湯と能・狂言」、『国立能楽堂』460号、pp. 31-34、日本芸術文化振興会、4. 1.
- 20 随筆：「能〈道成寺〉と友枝雄人と」、『観ノ会第5回公演パンフレット』、観ノ会、5. 29.
- 21 随筆：「閑位の雅風～友枝喜久夫を偲ぶ」、『友枝喜久夫 27回忌追善 友枝会公演パンフレット』、友枝会、11. 6.
- 22 随筆：「舞台批評の行く末（特集 日本文化の過去・現在・未来）」、『明星大学研究紀要 人文学部・日本文化学科』30号、pp. 15-16、明星大学人文学部日本文化学科、3. 10.
- 23 対談：「能楽対談 第626回『受け継がれるもの』（梅若万三郎氏と対談）」、『能楽タイムズ』1月号、能楽書林、1. 1.
- 24 対談：「この人に聞く～語り継ぐ能楽の世界～第5回（大槻文藏氏と対談聞き手）」、『国立能楽堂』457号、日本芸術文化振興会、1. 1.
- 25 対談：「大槻文藏氏に聞く」、『あぜくら』2月号、日本芸術文化振興会、2. 1.
- 26 鼎談：「石川県立音楽堂・音楽監督対談／音楽文化を世界に発信し、石川の文化土壌をより豊かに（池辺晋一郎氏と野村萬斎氏との対談司会）」、『石川県立音楽堂開館20周年記念誌——感動の翼を未来へ』、石川県音楽文化振興事業団、5. 不明日.
- 27 対談：「大槻能楽堂自主公演能・能の魅力を探るシリーズ『大槻文藏と読み解く・能の名曲6選（能〈通小町〉シテ：梅若万三郎）』（大槻文藏氏と対談）」、大槻能楽堂自主公演能パンフレット『おもて』令和4年度夏の巻 7・8・9月号、6. 30.
- 28 対談：「大槻能楽堂自主公演能・能の魅力を探るシリーズ『大槻文藏と読み解く・能の名曲6選（能〈楊貴妃 干之掛・台留〉シテ：浅井文義）』（大槻文藏氏と対談）」、大槻能楽堂自主公演能パンフレット『おもて』令和4年度冬の巻 1・2・3月号、12. 31.
- 29 評論：「東次郎の新面目と傑作〈袴裂〉の成功～5月の能・狂言」、『能楽タイムズ』5月号、能楽書林、5. 1.
- 30 評論：「観世流〈朝長 懺法〉の継承」、『能楽タイムズ』6月号、能楽書林、6. 1.
- 31 評論：「〈ラ・アルゲリッチ頌〉～マルタ・アルゲリッチと大槻文藏」、『能楽タイムズ』8月号、能楽書林、8. 1.

- 32 評論：「岡久広の精彩と金春流の2番～8月の能・狂言」、『能楽タイムズ』10月号、能楽書林、10.1.
- 33 解説：「仕舞〈雲林院 クセ〉、狂言〈二千石〉、能〈求塚〉」、『国立能楽堂』457号、pp.20-21、日本芸術文化振興会、1.1.
- 34 解説：「狂言〈簸屑〉、能〈室君〉」、『国立能楽堂』458号、pp.4-5、日本芸術文化振興会、2.1.
- 35 解説：「狂言〈鬼瓦〉、能〈当麻 二段返〉」、『国立能楽堂』459号、pp.13-14、日本芸術文化振興会、3.1.
- 36 解説：「狂言〈通円〉、能〈八島 弓流・那須〉」、『国立能楽堂』460号、pp.12-13、日本芸術文化振興会、4.1.
- 37 解説：「能〈俊成忠度〉、狂言〈宗論〉、能〈綾鼓〉」、『国立能楽堂』461号、pp.21-23、日本芸術文化振興会、5.1.
- 38 解説：「狂言〈とちはくれ〉、能〈百万〉」、『国立能楽堂』463号、pp.10-11、日本芸術文化振興会、7.1.
- 39 解説：「独鼓〈鶉之段〉、仕舞〈道明寺〉、小舞〈道明寺〉、袴能〈融 酌之舞〉」、『国立能楽堂』464号、pp.12-13、日本芸術文化振興会、8.1.
- 40 解説：「狂言〈舎弟〉、能〈松虫〉」、『国立能楽堂』465号、pp.14-15、日本芸術文化振興会、9.1.
- 41 解説：「能〈鶏簞〉、狂言〈浮舟 彩色〉」、『国立能楽堂』466号、pp.17-18、日本芸術文化振興会、10.1.
- 42 解説：「狂言〈太子手鐸〉、復曲能〈〈世阿弥自筆本による〉弱法師〉」、『国立能楽堂』467号、pp.28-29、日本芸術文化振興会、11.1.
- 43 解説：「狂言〈御茶の水〉、狂言〈禰宜山伏〉、狂言〈煎物〉」、『国立能楽堂』468号、pp.21-22、日本芸術文化振興会、12.1.
- 44 解説：「ミュージカル〈ミス・サイゴン〉鑑賞の手引き」、『日本文化学科1年生学外講座用冊子』、田村良平編・明星大学人文学部日本文化学科、8.8.
- 45 解説：「舞囃子〈杜若 素囃子〉、能〈定家〉について」、『石川県立音楽堂・舞台表現の可能性《金春禅竹の劇世界》公演パンフレット』、石川県音楽文化振興事業団、2.20.
- 46 解説：「能〈安宅 勸進帳・酌掛・延年之舞・貝立・貝附〉、狂言〈樋の酒〉、舞囃子〈熊野 村雨留〉、能〈石橋〉」、『第50回桃々會パンフレット』、桃々會、3.13.
- 47 解説：「能〈盛久〉」、『塩津能の會 第2回研鑽能パンフレット』、塩津能の會、7.24.
- 48 解説：「能〈鷺〉、狂言〈二千石〉、能〈朝長 懺法〉」、『25世観世左近元正33回忌春の追善能パンフレット』、観世会、4.3.
- 49 解説：「晩秋の一日にご堪能いただきたい傑作の数々・文楽」、石川県立音楽堂&オーケストラ・アンサンブル金沢情報誌『CADENZA／カデンツァ』vol.74(2022年10月～12月号)、石川県音楽文化振興事業団、9.不明日.
- 50 解説：「〈翁〉、狂言〈鞆猿〉、能〈三輪 神遊〉」、『第14回清能会・塩津能の會パン

- フレット』、塩津能の會、10.1.
- 51 解説：「日本全国能楽キャラバン！『大槻文蔵が舞ふ！』パンフレット（新作能〈蛙ヶ沼〉）」、能楽協会・大槻能楽堂、12.24.
- 52 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その5〈羽衣〉」、『茶道雑誌』1月号（第86巻第1号）、河原書店、1.1.
- 53 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その6〈当麻〉」、『茶道雑誌』2月号（第86巻第2号）、河原書店、2.1.
- 54 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その7〈朝長〉」、『茶道雑誌』3月号（第86巻第3号）、河原書店、3.1.
- 55 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その8〈熊野〉」、『茶道雑誌』4月号（第86巻第4号）、河原書店、4.1.
- 56 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その9〈檜垣〉」、『茶道雑誌』5月号（第86巻第5号）、河原書店、5.1.
- 57 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その10〈養老〉」、『茶道雑誌』6月号（第85巻第6号）、河原書店、6.1.
- 58 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その11〈楊貴妃〉」、『茶道雑誌』7月号（第85巻第7号）、河原書店、7.1.
- 59 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その12〈江口〉」、『茶道雑誌』8月号（第85巻第8号）、河原書店、8.1.
- 60 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その13〈実盛〉」、『茶道雑誌』9月号（第86巻第9号）、河原書店、9.1.
- 61 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その14〈邯鄲〉」、『茶道雑誌』10月号（第85巻第10号）、河原書店、10.1.
- 62 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その15〈通小町〉」、『茶道雑誌』11月号（第85巻第11号）、河原書店、11.1.
- 63 随筆：「心ごころの花～能ものがたり12ヶ月 その16〈山姥〉」、『茶道雑誌』12月号（第85巻第12号）、河原書店、12.1.
- 64 随筆：「かもめアカデミー／かもめの学習帳 能で読み解く源平の12人～第1回 源義経」、WEB マガジン『かもめの本棚』、東海教育研究所、9.8.
- 65 随筆：「かもめアカデミー／かもめの学習帳 能で読み解く源平の12人～第2回 静御前」、WEB マガジン『かもめの本棚』、東海教育研究所、10.5.
- 66 随筆：「かもめアカデミー／かもめの学習帳 能で読み解く源平の12人～第3回 鞍馬山の犬天狗」、WEB マガジン『かもめの本棚』、東海教育研究所、11.10.
- 67 随筆：「かもめアカデミー／かもめの学習帳 能で読み解く源平の12人～第4回 武蔵坊弁慶」、WEB マガジン『かもめの本棚』、東海教育研究所、12.9.
- 68 個人ウェブサイト「村上湛・古典演劇評論」において評論・研究・随想を随時公開
- B：1 招待講演：日本学術会議シンポジウム「芸術としての風土～芸と老い」（高橋睦郎氏と対談）、京都大学、11.27.



- 
- C : 1 一般財団法人観世文庫評議員
- 2 公益財団法人石川県音楽文化振興事業団石川県立音楽堂邦楽主幹
- 3 独立行政法人日本芸術文化振興会歌舞伎公演専門委員
- 4 講演：「本日の演目について」、TTR 能プロジェクト新春公演（能〈江口 甲之掛〉浅井文義）、大槻能楽堂、2. 19.
- 5 講演：「石川県立音楽堂カルチャーナビ『能の楽しみ』～能〈定家〉をめぐって～」、石川県立音楽堂、2. 20.
- 6 講演：「石川県立音楽堂カルチャーナビ 2022 Vol.3『人形浄瑠璃《文楽》プレ講座《音楽の司》義太夫浄瑠璃の魅力能の楽しみ』（〈封印切〉〈寺子屋〉をめぐって）」、石川県立音楽堂、9. 26.
- 7 講演：「鎌倉文学館古典講座《能に見る源平の人物ベスト10》」、鎌倉市公益文化振興財団・鎌倉文学館、6. 7.（収録）、6. 22～8. 31.（動画公開配信）
- 8 講演：「狂言〈薩摩守〉、能〈花筐 筐之伝〉、狂言〈簸屑〉、能〈杜若〉について」、セルリアンタワー能楽堂定期能9月～観世流、セルリアンタワー能楽堂、9. 24.
- 9 講演：「梅若万三郎家について」、梅若研能会特別公演、国立能楽堂、11. 3.
- 10 講演：「基経と二条后そして業平」、大槻能楽堂自主公演能・能の魅力を探るシリーズ「能の描く男たち」（能〈雲林院〉世阿弥本による シテ：観世鏡之丞）、大槻能楽堂、1. 22.
- 11 講演：「夜の契りの夢のうち」、石川県立音楽堂・舞台表現の可能性「金春禅竹の劇世界」（舞囃子〈杜若 素囃子〉梅若万三郎、能〈定家〉大槻文藏）、石川県立音楽堂交流ホール、2. 20.
- 12 講演：「山めぐりするぞ苦しき」、銀座余情～能と狂言 13:00 の部（能〈山姥 長杖之伝〉シテ：大槻文藏）、観世能楽堂、12. 10.
- 13 講演：「東西狂言～三家三様」、銀座余情～能と狂言 17:00 の部（狂言〈末広〉〈狐塚〉〈小傘〉）、観世能楽堂、12. 10.
- 14 講演：「大槻能楽堂自主公演能・能の魅力を探るシリーズ「大槻文藏と読み解く・能の名曲6選（能〈通小町〉シテ：梅若万三郎）」（大槻文藏氏と対談）、大槻能楽堂、4. 23.
- 15 講演：「大槻能楽堂自主公演能・能の魅力を探るシリーズ「大槻文藏と読み解く・能の名曲6選（能〈楊貴妃 干之掛・台留〉シテ：浅井文義）」（大槻文藏氏と対談）、大槻能楽堂、8. 27.
- 16 講演：「大槻能楽堂自主公演能・能の魅力を探るシリーズ「大槻文藏と読み解く・能の名曲6選（能〈阿漕〉シテ：友枝昭世）」（大槻文藏氏と対談）、大槻能楽堂、12. 17.
- 17 講演：「能〈三輪〉とその周辺」、明星大学人文学部日本文化学科主催・能楽鑑賞会（能〈三輪〉シテ：大槻文藏）、鏡仙会能楽研修所、12. 22.
- 18 講座：朝日カルチャーセンター新宿教室1月期「能をどう見るか 能〈求塚〉～恋慕の妄執・古代と中世のはざま」、朝日カルチャーセンター新宿教室、1. 13、2. 10、3. 10.
-

- 19 講座：朝日カルチャーセンター新宿教室4月期「能をどう見るか 能〈鉄輪〉～卑近かつ特異な情念のドラマ」、朝日カルチャーセンター新宿教室、4.14、6.12、7.9.
  - 20 講座：朝日カルチャーセンター新宿教室7月期「能をどう見るか 能〈三輪〉～中世神道の秘説と神仏混淆のドラマ」、朝日カルチャーセンター新宿教室、7.14、8.25、9.8.
  - 21 講座：朝日カルチャーセンター新宿教室10月期「能をどう見るか 能〈松虫〉～男色を秘めた結縁のドラマ」、朝日カルチャーセンター新宿教室、10.13、11.10、12.8.
  - 22 講座：かわさき市民アカデミー「昭和の思い出の名優(4)6代目中村歌右衛門～6世中村歌右衛門の至芸1～芝居を見る」、大山街道ふるさと館イベントホール、9.29.
  - 23 講座：「柿澤勇人さんと語るミュージカル〈ブラッド・ブラザーズ〉」(柿澤勇人氏と対談)、朝日カルチャーセンター新宿教室、3.2.
  - 24 講座：「大空ゆうひのこれまでとこれから」(大空ゆうひ氏と対談)、朝日カルチャーセンター新宿教室、4.21.
  - 25 放送：NHK-FM「FM能楽堂(独謡〈姨捨〉梅若実)」解説、8.13。(収録)、9.4、11。(放送)
  - 26 主催元(金沢おどり実行委員会・一般財団法人石川県芸術文化協会・北國新聞社)の委嘱により、第19回「金沢おどり」(石川県立音楽堂邦楽ホール、9.22～25.)舞踊台本〈兼六園名勝花鏡〉を執筆。
  - 27 自作演出の復曲能〈巴園〉再演に伴う演出助言(「日本全国能楽キャラバン!『大槻文蔵が舞ふ!』～スペクタクルな復曲～巴園」、大槻能楽堂、12.24.)
- D : 1 日本文化学科1年生学外講座として明星大学人文学部日本文化学科主催「ミュージカル鑑賞会」(「日本語レベルアップ1」代替授業・帝国劇場ミュージカル〈ミス・サイゴン〉)の企画・立案を担当する。帝国劇場、8.8.
- 2 日本文化学科2・3年生学外講座として明星大学人文学部日本文化学科主催「能楽鑑賞会」(「日本文化基礎演習2」「日本文化演習2」代替授業・能〈三輪〉シテ：大槻文蔵)の企画・立案を担当する。鏡仙会能楽研修所、12.22.
- 3 日本文化学科学生研究会「源氏物語研究会」の研究指導を通年に互って担当する。
- 4 日本文化学科学生雑誌『蝦蟇』の顧問を務める。

#### 服部 裕

- A : 1 (論文)「近代思想と民主主義」、明星大学研究紀要 人文学部・日本文化学科 第30号、pp.118(19)-104(33)、3.10.
- 2 (随筆)「民主主義の現在」、明星大学研究紀要 人文学部・日本文化学科 第30号、pp.3-5、3.10.

- D : 1 (研究会活動)日本文化学科「映画研究会」で上映会を11回開催し、上映後に学生

と討論することで上映作品に対して理解を深めた。

### 前田雅之

- A : 1 (単著)『古典と日本人 「古典的公共圏」の栄光と没落』(光文社新書、12月、307頁)  
 2 (共編著)『古典探究』(文英堂、高校生向け教科書、岡崎真紀子・土方洋一・松村茂樹氏と共編、463頁)
- B : 1 説話文学会委員。
- C : 1 講演「近世初期における大名と古典—松平忠房の蒐書活動を中心に」(3月17日、島原市教育委員会主催)  
 2 エッセイ「述懐の今昔」(『明星大学研究紀要、人文学部・日本文化学科』30、3月、7-10頁)
- D : 1 肥前島原松平文庫(島原市)における文献調査(3月16~18日)調査者、前田雅之、松本麻子、渡瀬淳子。科研調査。  
 2 肥前島原松平文庫(島原市)における文献調査(8月24日~26日)調査者、前田雅之、内田澪子、松本麻子、岡崎真紀子、渡瀬淳子。科研調査。  
 3 書物の移動データベース構築作業(3月26日~30日、作業者、前田雅之、渡瀬淳子)会場はいずれも明星大学前田研究室。  
 4 書物の移動データベース構築作業(8月31日~9月4日、作業者、前田雅之、渡瀬淳子)  
 5 書物の移動データベース構築作業(12月26日~30日、作業者、前田雅之、渡瀬淳子)

### 芳澤 元

- A : 1 (論文) 芳澤 元「謡曲『絵馬』管見—長祿三年伊勢齋宮の旅—」、高橋悠介編『アジア遊学 265 宗教芸能としての能楽』、勉誠出版、p. 39-59、2022. 01. 25  
 2 (解説) 芳澤 元「南北朝・室町期の仏教—「祖師」なき時代の社会と宗教—」、上島享・告井幸男・河西秀哉・岩城卓二・塩出浩之・谷川穰編『論点・日本史学』、ミネルヴェ書房、p. 116-117、2022. 08. 20  
 3 (論文) 芳澤 元「室町社会の宴と肉食禁忌—精進料理の歴史的前提—」、『歴史学研究』1027号、p. 12-25、61-62、2022. 10. 15
- B : 1 日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究)「分野横断的な中世仏教文献の研究—南北朝期の新史料『梅林折花集』を中心に—」研究期間: 2018. 04~2023. 03【研究代表者】  
 2 国際日本文化研究センター重点共同研究「応永・永享期文化論—「北山文化」「東

- 山文化」という大衆的歴史観のはざままで」研究期間：2018.06～2022.03【共同研究員】
- 3 野上記念法政大学能楽研究所：共同利用・共同研究拠点（能楽の国際・学際的研究拠点）「能作品の仏教関係語句データベース作成と能の宗教的背景に関する研究」2017.06～現在（研究代表者：高橋悠介）【研究分担者】
  - 4 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））「中近世移行期の門跡に関する史料学的研究」研究期間：2021.04～2025.03（研究代表者：近藤祐介）【研究分担者】
  - 5（研究発表）芳澤 元「耕雲と室町文化—明德・応永初期の地域と宗教—」、国際日本文化研究センター重点共同研究「応永・永享期文化論—「北山文化」「東山文化」という大衆的歴史観のはざままで—」最終研究会「室町前期の寺院史料」／シンポジウム「耕雲（子晋明魏）と寺社縁起」（於：国際日本文化研究センター第1共同研究室・ハイブリッド方式開催 京都市西京区）、2022.03.26
  - 6（研究発表）芳澤 元「中世寺院と和食文化—地方寺院と食品技術—」、鎌倉禅研究会第186回公開講座（於：大本山建長寺大庫裏・応真閣 神奈川県鎌倉市）、2022.10.20
  - 7（学会活動）佛教史学会委員 2008.10～現在
  - 8（学会活動）国際日本文化研究センター共同研究員 2018.06～2022.03
  - 9（学会活動）法政大学 野上記念法政大学能楽研究所客員研究員 2019.06～現在
  - 10（学会活動）歴史科学協議会『歴史評論』編集委員 2022.12～現在
- C：1（新聞論説）芳澤 元「僧坊の酒宴—精進と酔狂の室町人たち—」、『中外日報』[論] 4面、中外日報社、2022.02.02
- 2（随筆）芳澤 元「遠隔操作システムと文化史教育」、『明星大学研究紀要 人文学部・日本文学学科』30号、p.21-23、2022.03.10
  - 3（公開講座）芳澤 元「イソノワカメの悲劇？—日本史×室町文学のおもしろさ—」、明星大学オープンキャンパス模擬授業（於：東京都日野市）、2022.03.30
- D：1（学内研究会）「歴史を旅する会」夏季合宿（於：京都府京都市）2022.08.23～2022.08.25 \* covid-19感染防備による活動制限後、初となる合宿式エクスカージョンを実施した。20名の学生を引率し、3日間にわたり史跡踏査を実施。北山エリア（鹿苑寺、御土居、北野天満宮、龍安寺、仁和寺）を皮切りに、嵐山エリアでは600年前の京都古地図『応永釣命絵図』と現代の地図を比較しながら巡見した。その成果は星友祭にて展示した（2022.10.29～10.31）。
- 2（調査編集）能作品の仏教関係語句データベース作成と能の宗教的背景に関する研究（於：法政大学能楽研究所：共同利用・共同研究拠点）
  - 3（調査編集）日本学術振興会科学研究費補助金〔若手研究〕醍醐寺蔵『梅林折花集』翻刻（於：zoom オンライン／金沢大学角間キャンパス 石川県金沢市）2022.09.08～09.10、12.09 \* オンラインでは月に複数回の会読を実施した。綿密

---

な議論や打合せに応じて、研究協力者である猪瀬千尋氏と若山憲昭氏と相談し、互いの勤務地の中間地点である金沢大学角間キャンパスで対面会読も2度実施した。中世華嚴学を専攻する野呂靖氏もオンラインで招聘し、会読の知見を深めた。

- 4 (現地調査) 諏訪上社・下社寺院史跡踏査 (於:長野県諏訪市)
- 5 (学内) 1年生必修科目「日本文化体験」の企画運営 (於:日野キャンパス) 2022.09~2023.01 \* 2022年度も昨年度と同様、条件付き対面形式で、百人一首競技カルタ、能楽体験、茶道体験、講談体験、落語体験、将棋体験、作文講座を開講した。坐禅体験に代えて落語体験の2講目追加と将棋体験の新設を行うとともに、昨年度は無料アプリ仕様だったカルタ体験が、通常の競技式に復することができた。茶道体験のみは昨年度と変わらず、密回避と飲食禁止のため、個人練習や班別茶道具拝観を教室内で行うにとどまった。
- 6 (学内) 2年生必修科目「古典文化基礎演習1・2」における寺社参詣曼荼羅と職人歌合を組み合わせたグループワーク (於:日野キャンパス) 2022.04~2023.01